

サテライト六郷…全力対処を望む

最善の努力を重ねる

吉野久議員 2月19日、サテライト六郷の幹事施行者『東京都市収益事業組合』の競輪事業撤退と、新たな施行者として立川競輪への折衝が報告された。

この施設は、これまで町財政や雇用面で大きな役割を果たしてきた。町はこの事態に全力で対処すべきと考え質問する。

①立川競輪との折衝状況と見通し。②今後、使用頻度が減少すると思われる『ふれあい広場』の有効活用。③町として全力で補償交渉すべき従業員の処遇。

町長 ①現在、情報収集に努めているが、年度内に新たな幹事施行者が決定するよう最善の努力を重ねる。

②サテライト営業時は別として、美郷町の中央区で国道の至近距離にある立地を踏まえ、商業・観光振興にかかわるイベントや交流促進を観点とした有効活用を検討したい。

③新しい幹事施行者が決まった段階で、できる限り再雇用が確保されるよう働きかける。

下水道…
加入率の向上を

吉野議員 住環境と町財政を勘案し、公共下水道の加入率向上が喫緊の課題と考え提案する。

①『水洗便所改造資金融資あつせん要綱』の改正として、敷設後3年以内の期限撤廃と会社や新築への対象拡大、2名の連帯保証人見直しと80万



吉野久議員

円の限度枠拡大。②町民へのさらなる働きかけとして、職員体制の強化とチラシ配布や座談会でのPR、戸別訪問の実施。

③地下水保全と関連した町民への啓蒙として、地下水保全条例や地下水を公水と捉えた地下水利用組合の検討。

地下水が、無限でただの意識を払拭しなければ大切な宝物を失いかねない。また、この取り組みが将来の町民に誇れるまちづくりと考える。

町長 ①現在、徐々に加入者が増加しているが、なお一層の取り組みが必要と認識し要綱改正を検討している。内容は、3

年以内の期限緩和と新築家屋などへの対象拡大、融資枠の再検討。連帯保証人の人数は金融機関と協議する。

②広報でのPRなどこれまでの働きかけを継続し、要綱改正を踏まえた制度周知を検討して促進努力したい。増員は、職員漸減のため困難だ。

③条例は、地下・地表水環境共に包含した概念で検討し年度内制定を目指す。組合は、私水・公水の議論もあり条例検討の際併せて議論したい。

交声曲の創曲を

吉野議員 国体セレモニーでは、美郷町ならではのホスピタリティー発揮と演出を望む。

時間的に可能なら、旧3町村の歴史・文化や風

土を題材とし、美郷町の未来を最終楽章とした4部構成の交声曲を創曲して披露してはどうか。

この交声曲を、各地域の学校や合唱サークルで歌い継ぎ、毎年町民が一堂に会して楽しむコンサートが開かれるなら、美郷町の一体感形成に寄与すると考える。

町長 国体では、市町村での競技別開会式を原則行わない方針だ。しかし、できる範囲で美郷町らしさを演出したい。

交声曲創曲は、現在、制定した町民歌やイメー・ジソングの浸透が大切であり制作の考えはない。また、国体開催そのものが一体感の醸成につながるよう、町民総参加を推進したい。



サテライト六郷とふれあい広場

「ゆとり」は生まれたか 生まれたと認識している

森元淑雄議員 本町は、このゆとり教育についてのゆとり教育についての総括評価をしているのか。

また、教育委員会としては、制度の是非と児童生徒の学力低下防止に對してどのような方策を持っているのか、次の点に關してうかがう。

①制度によって本当に「ゆとり」が生まれたのか。

②家庭や地域での制度に對する認識はどの程度と把握しているのか。

③学校現場での対応は。④勉強離れや学力低下に對する委員会としての方策は。

教育長 各学校が創意工夫して、これまでの教科の枠を超えた活動を実践している。

①学習の幅、内容の広がりという意味においてゆとりが生まれたと認識している。

②家庭、地域での理解

も得られているものと思われ。

③本町の小・中学生は、全県平均を上回っている現状であり、何ら劣っていないものと確信している。

④教育委員会としては、支援を要する児童生徒への個別学習や、非常勤職員を各学校に配置している。

本堂地区の基盤整備事業どのように

森元議員 平成19年度の面工事業積が確定されたと共に、百目木地区の道路拡幅に對する要望が出されているようだが、町としてはどのような取り組みをしようと考えているか。併せて、整備事業と環境保全に關しては、どのように捉えて事業を展開していくつもりか。

町長 要望趣旨を具体化

する取り組みについては、本堂地区の基盤整備事業の中で県と土地改良区と調整している。また、幅員及び構造についても県が事業主体として、取り組んでいくことと思う。

また、基盤整備と環境保全は、土崎小荒川地区の整備事業と同様な考え方で臨む。

今後の消防団のあり方は

森元議員 昨今各団の現状は若い団員の加入に乏しく、高齢化が進んでおるのが実態だ。消防団の現状を考え、地域住民の



乳児検診

生命の保護と町の将来を見据えた時、今後の分団及び班体制に對する考えは。

「こんにちは赤ちゃん」事業の内容は

森元議員 平成19年度よりスタートする「こんにちは赤ちゃん」事業について、町としてはどのような取り組みを検討しているのかをうかがう。

町長 各地区ごとに分団内班体制に差異があり、これを解消し、緊急時の班内対応人員について、機動体制の統一化を目指したいと考えている。

町長 美郷町においては、保健師がすべての乳児に對して生後4ヶ月まで新生児訪問、乳幼児訪問を実施している。この活動がまさに「こんにちは赤ちゃん事業」に当たると認識している。

森元 淑雄 議員